

まちにぎワークショップ報告会

平成28年2月20日（土）午後6時～7時
行田市商工センター 403研修室
参加者 5名

報告会では、今年度4回にわたり開催したワークショップ結果及び住民・来訪者意識調査（アンケート）の研究成果を報告し、報告内容等について意見交換を行いました。主な意見と回答は以下のとおりです。

●参加者からの意見と事務局の回答

- 【参加者】 いろいろなまちづくりの会合に参加させていただいているが、行政の縦割りの弊害からか、どこが主体なのかわからず、どれも中途半端に見受けられる。
- 【もの大】 個々で事業を行うと、どうしても足並みが揃わなくなることは容易に想像することができる。そうしたことから、市民主体組織を設置することにより、「ここはこうして欲しい」など、各方面からアプローチしていくことができ、行政の主導権を私たち市民が握っていくことができるものと思う。
- 【参加者】 報告のなかで、39歳以下の市民はまちづくり活動への参加意欲が高いとあったことは、大変有難く、また力強くも感じる。今後はそういった若者層にまちづくりに参加してもらえよう、検討していくべきだと思う。
- 【もの大】 若者層の参加意欲が高い結果となったことは、私たちも大変有難く思っている。ただし、若い方々は日中は忙しく、まちづくり活動などへの参加は難しい面もあることから、参加できるときに参加してもらうことで仕方がないのかな、と思う。
- 【参加者】 行政は各課が何を行っているのかピックアップするのと同時に、本気でやろうとするのならば一本化してまとめて行う課をつくれればよい。
- 【市】 縦割りという意見に対しては市内部で横断的に取り組んでいくものとして、2回の調整会議を開催させていただいた。今後も所管課職員の同席のもと、引き続きワークショップを開催する予定である。
- 【参加者】 年間にいつ、どのような団体が、どのような主旨で活動を行っているかを掲載した活動団体の一覧を作成してほしい。それらを総合的にプロデュースする団体が出てこない限りは個人頼りになってしまう。
- 【市】 NPO団体や市民大学など個々の活動は活発であるものの十分な連携が図れていないことから、来年度の目標として、市民活動の母体をつくっていきたいと考えている。そこに加入し、団体間で連携を図ることで、イベントの重複開催を避けることができ、また人手が足りない際は応援に駆けつけることが出来るような体制づくりも可能になるものと考えている。今後5年間でそのような組織を立ち上げ、市民主体のまちづくりに繋げていきたい。
- 【参加者】 個々の団体は、自分たちの活動で精一杯で、団体間を繋ぐ、いわゆるコーディネート機能が不足していた。そこが一番の問題であり、核となるコーディネート機能が備わりさえすれば、あとは情報を集めていろいろな形の繋ぎ方ができるものと思われることから、その点さえクリアできればかなり前進するものと思う。
- 【参加者】 ワークショップの内容が良かっただけに、もう少し参加者がいても良かったのではないかと。そういったことから輪が広がってくると思われるので、もう少し動員を頑張ってください。

●開催風景

